

みるみるわかる 心血管のはなし

執筆 ● 田宮 栄治
(江東病院 循環器内科 副院長)

村川 裕二
(帝京大学 溝口病院 第四内科 教授)

心臓はひとりで仕事をしているわけではありません。身体中の臓器と血管でつながっています。いろいろな心血管の病態を学べば、臓器がどんなふうに協力し合っているかが見えてきますよ。

連載第10回

動脈硬化はどこでわかる？

→ 脈波検査、頸動脈エコー、動脈造影などの紹介と慢性期の治療

症例 1

高血圧症、2型糖尿病と脂質異常症があり、PCI（経皮的冠動脈形成術）後の81歳男性。下肢の症状はないが、PCIのrestudy前にABI（ankle brachial index）を行った。

- 既往歴・家族歴：特記すべきことはなし。
- 生活歴：喫煙 10本/日 × 61年。

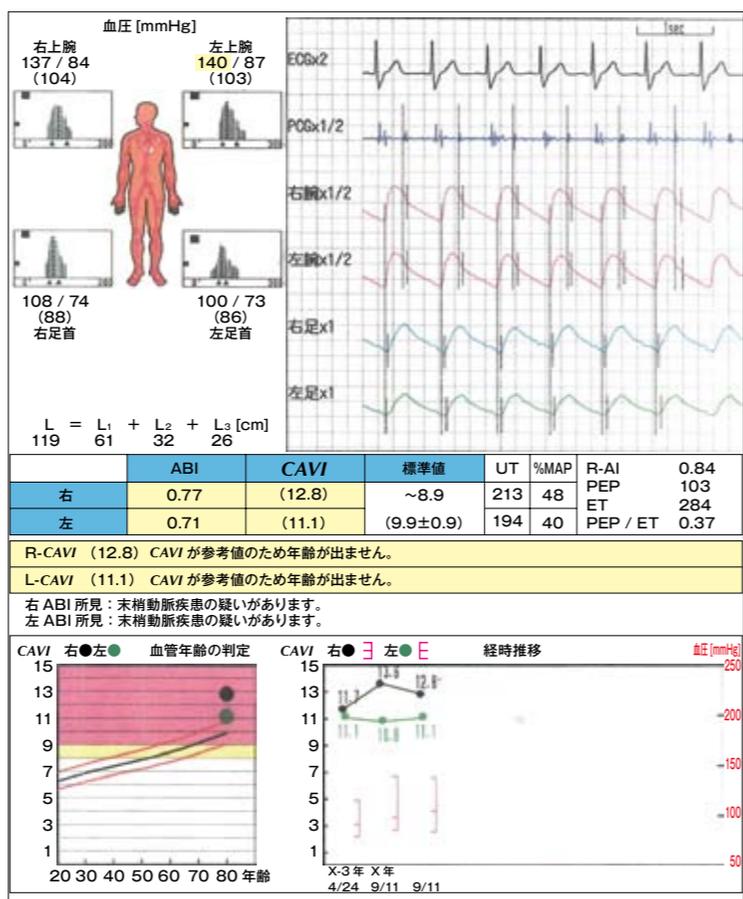


図1 症例1: ABI

ディスカッション

新年会シーズンだねえ。

はい。

忘年会もそうだったけど、いつも挨拶のネタに困るんだよな。

私たちは毎回、ゲームのネタに困っています。

そういえば、これ使えるかも。知り合いの日本語を話せる外国人が言っていたけど、数字の1, 2, 3, 4, 5を順に言ってみて。

はい。「いち、に、さん、し、ご」ですか。

では、まったく同じ言葉でそれを逆から言ってみて。

はい。「ご、よん、さん、に、いち」ですか。

ほら、間違えた。

?

「よん」が違うでしょ。1~5を言うときは、「いち、に、さん、し、ご」かまたは「いち、に、さん、よん、ご」で、4は「し」または「よん」だけど、逆に5~1を言うときは「し」は使わず、「よん」だけ使う人が多いみたい。

たしかに、「ご、し、さん、に、いち」は少し変ですね。へえ〜、今まで全然気がつきませんでした。

他に7を「しち」、9を「くー」という人がいるので、数字をいくつか並べて左から右に、右から左に同じ言葉で速く言うのは結構難しいかも。

先生、これいけます。ぜひ、今年度の新年会で使ってみます。

どうぞ。ただし、ウケなくても責任は勘弁してね……。

えっ、そんな〜。

さて、今回のテーマは「動脈硬化はどこでわかる？→脈波検査、頸動脈エコー、動脈造影などの紹介と慢性期の治療」です。では症例に入ります。図1はこの患者さんのABIです。

右 0.77, 左 0.71 と軽度低下しています。

指導医
経験16年目の循環器専門医。「みるみる」シリーズの新連載を同僚から引き継いだ。今までの連載の評判を越えられるように張り切っている。

研修医
経験2年目。将来は循環器の専門医をめざして日々勉強中。指導医の異様な気合いに困惑している。